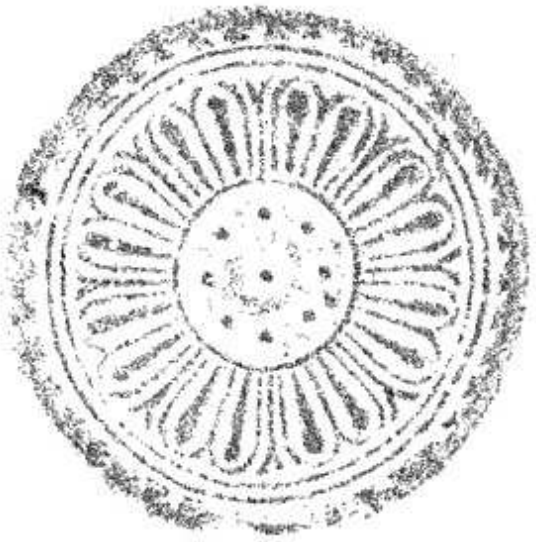
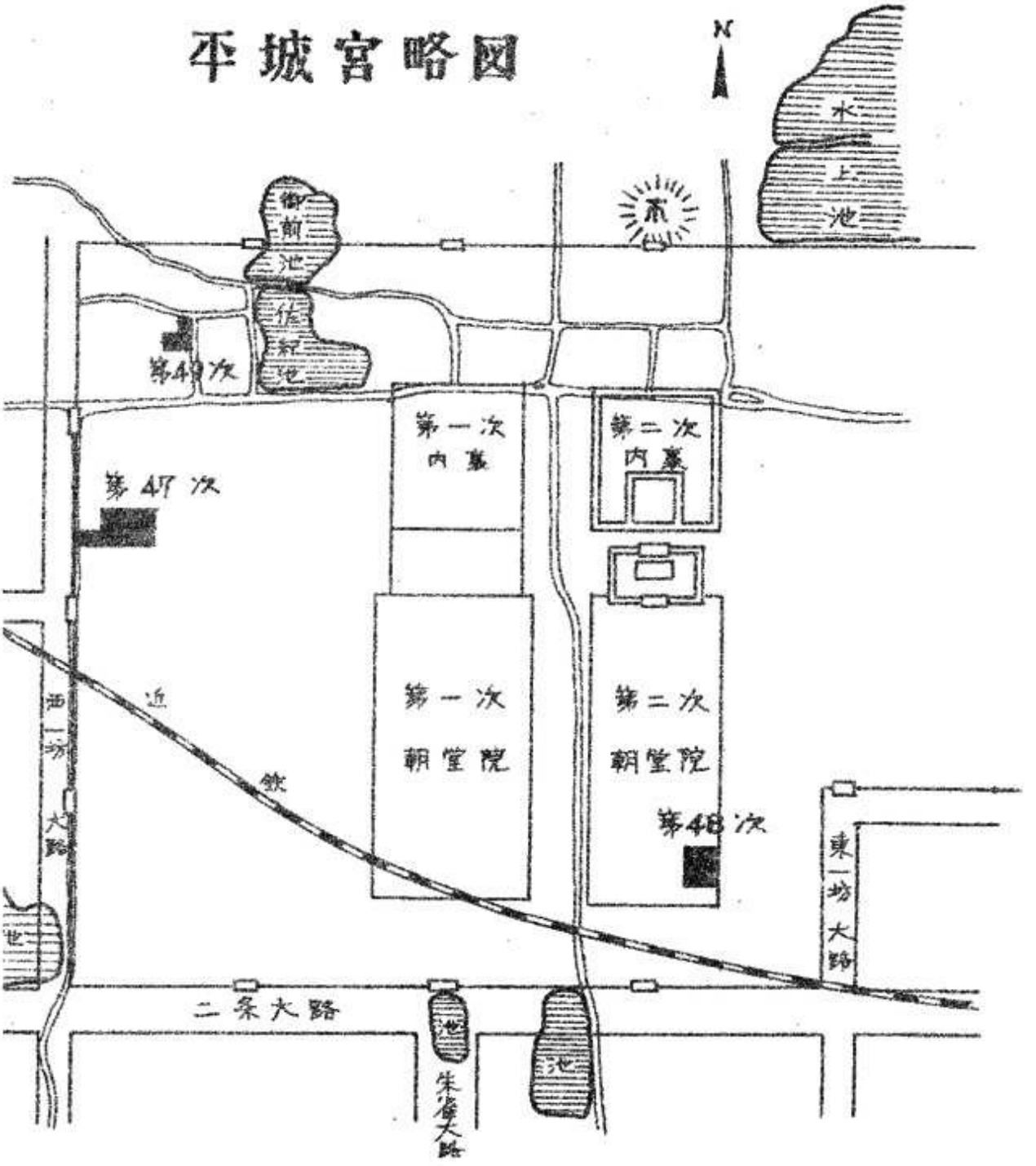
# 平城宮第47·48·49次発掘調査概報



1968年8月

奈良国立文化財研究所

# 平城宮略図




表紙カット

第48次調査出土　軒丸瓦

# 平城宮第47·48·49次発掘調査概要

奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が特別史跡「平城宮跡」において行なっている発掘調査のうち、昭和47年度当初以降に調査を開始した第47次・48次・49次について、調査概要を報告する。

第47次調査地区は、平城宮跡の西部で、西面北門の北方に隣接したところである。第48次調査は第2次朝堂院東朝集殿、第49次調査は宮跡西北隅に近い民家密集地域の一角について行なった。第49次調査は、宅地現状変更にともなう小規模な調査であり、数条の南北溝と若干の穴を検出したにとどまるので記述を省略する。

以上の各次別の調査地区、発掘面積、期間は次表の通りである。

| 調査次数 | 調査地区 | 発掘面積 | 発掘期間 |
|---|---|---|---|
| 第47次 | 6ADD | 33a | 1968年5月13日～ |
| 第48次 | 6AAW－B<br>6AAX－A | 19.8a | 1968年5月20日～ |
| 第49次 | 6ADB | 7.2a | 1968年6月3日<br>～7月30日 |

## I 第47次調査

調査地域は、宮西方の小字「大りの宮」に属し、昨年おこなった第37次調査区域の西側に接する場所である。

宮に属する遺構としては、建物3棟、柵2条、溝2条を検出したにすぎなかった。

発掘地域東部では南北溝SD5960（幅50m）と柵SA5950（柱間2.70m）が平行して走っている。その西側に東西棟の掘立柱建物SB5951（2間以上×2間、柱間2.7m）とSB5955（1間以上×2間、柱間2.4～2.7m）があり、SB5951から西へ3.2mはなれて南北棟の

掘立柱建物SB 5965（3間×2間 柱間1.8～2.0m）があった。溝SD 5961（幅1.0m）は発掘地域中央を東西に走り、南北溝SD 5960に注いでいる。そのほかの遺構としては 柵SA 5941（柱間5.6m）と平城宮廃絶以降のものと考えられる掘立柱建物数棟と井戸があるにすぎない。

出土遺物としては 瓦 土器があるが 遺構が少ないと同様 遺物も少量で 内容についても特記すべきことはない。

## Ⅱ 第48次調査

調査地域は推定第2次朝堂院地区の東南部で 東朝集殿推定地を含めた、19.8aの範囲である。

調査着手前から 約7m四方にわたって小山状の隆起部があり、「東朝集殿址」と推定した標柱も立っている。調査もその隆起部を中心に実施した。調査の結果 この高さ約75cmの隆起部も基壇積土の一部であることが判明した。隆起部の中心から南へ約7.5m 北へ2.7m 西へ約9m そして東へ約6.5mの長方形の範囲には 黄褐色の基壇積土がひろがっている。この基壇積土の周囲で 北 西 東の各辺縁において 大小の凝灰岩が散乱した状態で検出できた。この凝灰岩は 基壇の外側に一定の幅をもって散乱している。東辺では 基壇東縁と考えられる線から数十cmのところで 南北方向に走る幅10cm～20cmの溝を検出した。同様の溝を さらに 北 西 南においても認めた。溝とは別に 北辺の東半部で この溝の内側すなわち南側にずれ 基壇積土に密着した凝灰岩の痕跡を発見し これを地覆石の痕跡と推定した。したがって この溝は区画溝であって その内側に 地覆石をめぐらしたことを考えることができよう。この溝にかこまれた長方形の範囲は南北約38.2m 東西約19.8mになる。

東辺の南方 さきの南辺溝の内側から約5.6m北方のところより 幅約4mで東方へ約1.1mの張り出し部分を認めた。階段部と考える。東辺では ちょうど南北方向の中心部にも 階段痕跡を検出した。この中央階段をはさんで さきの南階段の対称位置に北階段を考えると 東辺には 三つの階段

を想定することができる。西辺では、南階段だけ階段基底部張出しと凝灰岩敷跡を確認できたが、東辺と対称位置の中央階段および北階段については明らかにしえなかった。

そのほか、調査区北縁では、北からくる南北溝が基壇の西北隅付近で直角におれて、基壇の北辺に沿する東西溝にかわり、築地西側南北溝に合流していた。

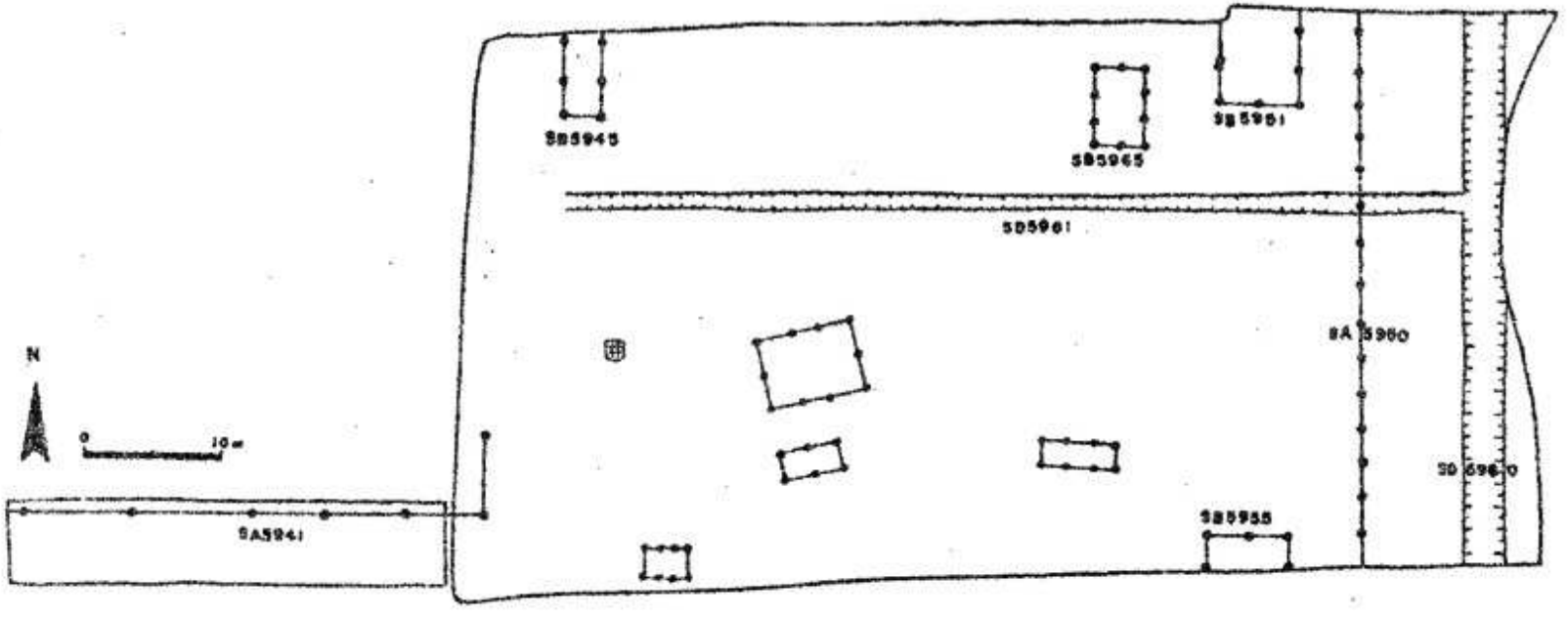
朝集殿の東方、約11mのところには、幅3m以上の築地の基底部が南北方向に走っている。築地の西側に沿して、幅1m前後の南北溝も検出した。朝集殿基壇、築地はともに掘込地業を行なっていない。

なお、今回の発掘区の西北隅で、奈良時代以前で、弥生式時代畿内第5様式土器、古墳時代の土師器、埴輪などを包含する溝を認めた。さらに、築地の東側では、円筒埴輪を棺材に転用した円筒棺を見出した。

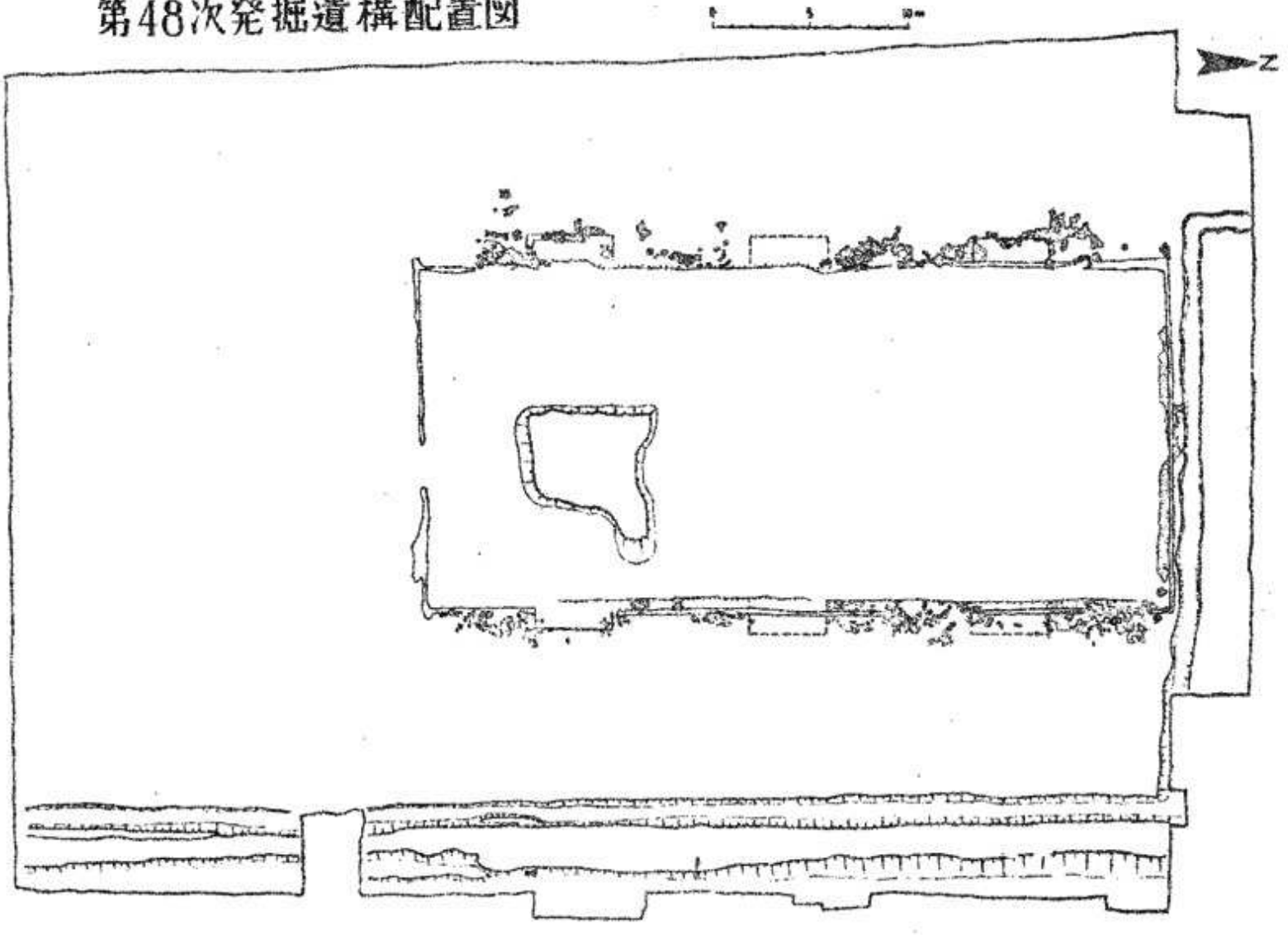
遺物としては、表記のような組み合わせの軒瓦をはじめ、多量の平瓦、丸瓦、少量の須恵器、土師器、そのほかに、鉄釘、円面硯破片なども発見した。とくに軒瓦では6663－6225型式のセットが大多数を占め、この型式の瓦が推定第2次朝堂院の造営と関連するものであることをうらづけた。

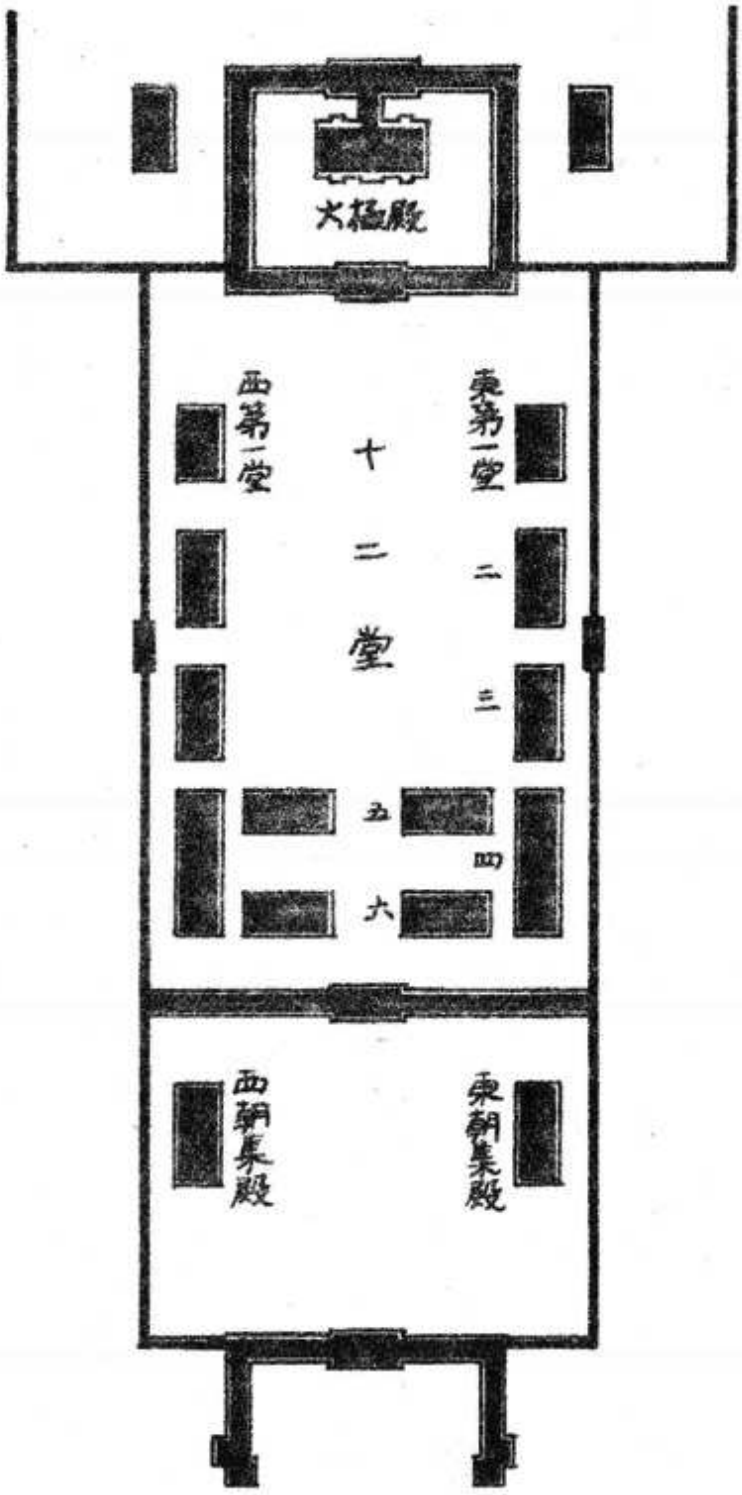
| 軒平瓦 | | | 軒丸瓦 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 型式 | 個数 | % | 型式 | 個数 | % |
| 6663 | 128 | 90.9 | 6225 | 68 | 68.9 |
| 6664 | 3 | 2.1 | 6311 | 5 | 5.0 |
| 6643 | 2 | 1.4 | 6133 | 4 | 4.0 |
| 6681 | 2 | 1.4 | 6273 | 3 | 3.0 |
| 6691 | 2 | 1.4 | 6275 | 2 | 2.0 |
| 6721 | 1 | 0.7 | 6348 | 1 | 1.0 |
| 不明 | 3 | 2.1 | 6130 | 1 | 1.0 |
| 合計 | 141 | 100 | 6282 | 1 | 1.0 |
| | | | 不明 | 14 | 14.1 |
| | | | 合計 | 99 | 100.0 |

# 第47次発掘遺構配置図



第48次発掘遺構配置図






平城宮朝堂院一郭